

## 1. 「ホシザキ野生生物研究所事業」

### (1) 基本的な考え方

- ・特に調査研究・情報収集発信事業を実施する拠点として位置づけるとともに、普及啓発事業への関わりをより一層強める。
- ・特にラムサール条約登録湿地である宍道湖・中海の特性を生かした事業に取り組む。
- ・宍道湖グリーンパーク(ビオトープ池)と尺の内公園を付属施設として位置付けて、調査研究ならびに普及啓発事業の場としてより一層の充実を図る。
- ・グリーンパークと宍道湖自然館ゴビウスで取り組む各事業と密接に連携する。

### (2) 進め方

- ・専門的学術研究を進め、その過程で得られる知見や成果等を保存管理し、有効に活用できるように施設・体制の整備をする。
- ・事業全体の独自性・効率性を高めるため、調査研究・情報収集発信の拠点として必要な設備や備品を整備するとともに、必要に応じて資料化やシステム化を進める。
- ・調査研究の成果を常設あるいは企画展示、観察会等の普及活動に活かしていく。
- ・グリーンパークならびに尺の内公園については野生生物が生息できる場所としての機能を高めつつ、より多くの人々の利用に供する整備等を進める。
- ・グリーンパークやゴビウスの展示や資料作成へのより効果的な協力を図る。
- ・実習室の利用を通じ、普及啓発事業のより一層の充実に貢献する。
- ・調査研究・普及啓発事業に必要な文献や標本などの資料を保管する。
- ・各種の関係機関・団体、研究者・ナチュラリストと適宜連携をとっていく。

## 2. 「宍道湖グリーンパーク事業」

### (1) 基本的な考え方

- ・地域に密着した施設として、西日本有数の水鳥飛来地でありラムサール条約湿地となった宍道湖・中海の特性を生かした環境学習・啓発の機能強化に努める。
- ・園内の植栽や周辺植生の特色を活かしながら、野鳥や昆虫などの野生生物が生息し、来園者が散策や学習をしてみたいと感じる魅力ある管理に努め、整備した環境を調査研究や普及啓発事業に結びつける。
- ・自然環境や野生動植物の学習や保護活動などを通して、地域住民、研究者、ナチュラリストが交流できる場となるよう努める。
- ・自然環境保護に対する人々の学習を支援できるよう整備し充実を図る。
- ・特に宍道湖自然館ゴビウスとの事業連携を強める。

### (2) 進め方

- ・来園者の満足度を高めるために、自然と親しむきっかけづくりとなる展示物などの設備や備品を充実し、グリーンパークの利用促進に努める。

- ・ 自然観察会や企画展などを通じ、地域の人たちへの自然保護意識の普及啓発の場となるよう努める。
- ・ 環境学習などを希望する団体対応の充実を図る。
- ・ 野鳥観察舎をはじめ園内全体を対象として解説板の設置などの普及啓発機能を高める整備を進める。
- ・ 園内ならびにビオトープ池において、鳥類や昆虫類などをはじめとした野生動植物の生息環境をさらに充実させるための整備や管理を検討し実行する。
- ・ パークボランティアの活動の輪を広げ、さらに交流が深まる場とする。
- ・ 研究所とともに園内やビオトープ池、周辺に生息する鳥類や昆虫類、植物などの効率的なモニタリングに努め、自然情報の収集と発信を行える場とする。
- ・ カワセミの人工営巣壁の管理をはじめ水場等があるバードサンクチュアリの機能の充実に努める。
- ・ 地権者の理解を得て水田に水を張り「白鳥の採食場」としての環境整備を行うとともに、生物調査や自然観察会を実施する。
- ・ 来園者に楽しんでいただくことを目的とする「ペンギンミュージアム」を適切に維持管理する。

### 3. 「ふるさと尺の内公園事業」

#### (1) 基本的な考え方

- ・ 里山環境にある公園として、野生生物の生息環境を整備しながら、人と自然のふれあいの場を提供できる公園づくりと活用を図る。
- ・ 野生生物の生息や普及啓発面にも配慮して効果的な管理を行い、必要な整備を実施する。
- ・ 地元小学校、幼稚園、保育園など地域の住民がより利用しやすくなるように整備と活用を図る。

#### (2) 進め方

- ・ 里山で見られる樹木や生き物など自然を観察できる整備を進める。
- ・ オニバスなどの希少植物や県内を代表する植物などの保護増殖の検討の場として活用する。
- ・ 池や小川を在来の生物が生息しやすい環境になるよう整備を進める。
- ・ 駐車場からメイン園路や小園路の整備を進めるとともに、ベンチや東屋を設置し、利便性を向上する。
- ・ 普及啓発のための案内板、解説板、樹名板を適宜追加していく。
- ・ 自然観察会などを実施し、自然保護につながる普及啓発の場としていく。
- ・ 後背地の森林も含め、昆虫や鳥類、植物などの調査を継続しながら環境整備を実施する。

### 4. 「調査研究事業」

#### (1) 基本的な考え方

- ・ 県内の希少な野生動植物の分布、生態、減少要因などを研究する。
- ・ 宍道湖や中海など県東部地域の自然特性を活かしたテーマに重点を置く。
- ・ 宍道湖グリーンパーク（ビオトープ池）やふるさと尺の内公園など施設の特色を生かした調査

- や、それぞれの施設の整備や管理に生かすことができるような調査研究にも取り組む。
- ・ 宍道湖、里山、水辺環境、希少種保護、生物多様性など多くのテーマがある中、限られた時間、設備、予算、スタッフの下で効率よく研究を進展させるため、職員の自主研究のほかに、大学や博物館との連携をはじめ、第一線研究者への委託研究、地域の研究者・ナチュラリストとの共同研究を実施していくほか、客員研究員制度を活用する。
- ・ 研究テーマの選択にあたっては、地域性、重要性、緊急性、発展性を常に考慮していく。

## (2) 進め方

### ◎職員自主研究

#### ①鳥類の環境利用特性の研究

宍道湖西岸域を中心に鳥類の生息状況を把握し、湖面、河口、水田、ヨシ原、草地、河畔林などの環境要素の利用特性について研究する。

#### ②マガン・ヒシクイ・コハクチョウの日周行動特性の研究

宍道湖西岸域に渡来するこれら鳥類の日周行動を調査し、ねぐら、採食場、休息場等の分布状況を記録することで、これら鳥類のおかれている現状を把握するための基礎データを蓄積する。

#### ③特定鳥類の生息状況調査

レッドデータブック掲載種や繁殖等の生息情報が不足している種、ソウシチョウやカワウなど生息の動向が注目される種を対象に県内の生息状況について情報の収集や調査を行う。

#### ④ヒシクイ・ハクチョウ類のビルパターン解析

宍道湖西岸に渡来するヒシクイとコハクチョウのビルパターンの記録をとり、亜種や個体識別の情報として蓄積し、解析する。

#### ⑤鳥類生息情報の集積

島根県産鳥類目録や地域別の鳥類目録作成のための基礎的な情報収集のほか、レッドデータブック掲載種などの鳥類の生息情報を収集し、データベース化を図る。

#### ⑥ネクイハムシ亜科の進化生物学的研究

ネクイハムシ亜科甲虫類の系統進化について、DNA解析も含めて研究を行う。日本列島のネクイハムシ亜科の進化を探るには日本の周辺地域も研究フィールドとする必要があり、極東ロシア、韓国、中国、東南アジア、北アメリカなどの種についても検討する。

#### ⑦日本産水生甲虫類の分類学的研究

ゲンゴロウ類・ガムシ類・ドロムシ類などの水生甲虫類の記載・分類を行う。特に不明な点が多い幼生期について野外調査や飼育、分子系統によって解明する。

#### ⑧島根県の止水および流水域に生息する水生昆虫類の保全生物学的研究

島根県の湿地や池、河川に生息する昆虫類の分布状況や生態について、特に絶滅危惧種を対象に調査を行う。

#### ⑨山陰の海岸や砂丘に生息する昆虫類や節足動物に関する研究

海浜や岩礁といった特殊な環境や海岸に発達する砂丘に生息する昆虫類について、特に絶滅危惧種を対象に調査を行う。

#### ⑩島根県産昆虫目録を作成するための基礎調査

標本や文献記録の整理を行う。特に隠岐諸島の昆虫目録の作成、コウチュウ目やアミメカゲロウ目など特定の分類群の分布調査を行う。

#### ⑪島根県産植物の調査ならびに染色体観察

植物相把握整理のための標本調査と現地調査を染色体観察を交えて進める。ラショウモンカズラ

や環突道湖産アオキなどの特定種について染色体研究を進める。

⑫特定植物種の産地や形態に関する調査と染色体観察

ラショウモンカズラや環突道湖産アオキなどの特定の種について現地調査や形態計測、染色体観察などにより実態を解明する。

⑬オニバスの保護増殖に係る生育調査

尺の内公園で保護増殖を試みているオニバスの生育調査を実施する。

⑩ビオトープ池の生物調査

北側用地に造成されたビオトープ池とその周辺の田んぼの鳥類や水生生物、植物を継続的に調査し、ビオトープ池における生物種多様性のありかたと今後の維持管理に役立てる。

⑫尺の内公園の生物調査

公園および周囲の森林の鳥類や昆虫、植物を継続的に調査し、尺の内公園における生物種多様性のありかたと今後の維持管理に役立てる。昆虫や鳥類以外の動物も調査対象に含める。

⑬グリーンパーク周辺の鳥類定量カウント調査

突道湖グリーンパーク周辺を環境別に7つのサイトにわけ、出現種や個体数の変動などを把握することで、鳥類の生息環境保全のための基礎的資料を得る。

⑭グリーンパークの生物調査

グリーンパークや突道湖岸に生息する昆虫類などの調査を行う。また、多自然型湖岸堤（ワンド）で発生するナゴヤサナエの個体数と消長を調査し、生息環境保全のための基礎的資料を得る。

◎委託研究

①ガン・カモ・ハクチョウ類個体数調査（継続）

突道湖・中海やその周辺に飛来するカモ科鳥類のカウント調査を行う。

②中海周辺におけるガン・ハクチョウ類の採食分布調査（継続）

突道湖周辺のガン・ハクチョウ類の採食分布調査と同日実施することで、突道湖と中海全体での動態を把握する。

③日本産ヒメドロムシ科の系統解析（継続）

島根県内をはじめ日本各地のヒメドロムシ科について分子系統解析を行い、遺伝的分化の程度や翅多型などの多様性について検討する。

④隠岐の陸棲生物相調査（新規）

隠岐諸島に生息する陸生動物、特に昆虫やクモ、土壌生物について野外調査や情報収集を行い、生息状況を解明する。

⑤島根県内の直翅類の生息状況に関する基礎調査（新規）

絶滅危惧種や外来種をはじめ直翅類全般について情報を収集し、生息状況を解明する。

⑥島根県のカニムシ相調査（新規）

島根県内での生息に関する情報が少ないカニムシについて調査を行い、現状を把握して保全について検討を行う。

⑦島根県産水生動物の寄生虫相に関する研究（継続）

突道湖や中海を含めた水域に生息する寄生虫について調査を行い、保全上の重要種の生息状況を検討する。

⑧島根県のアブラムシ相調査（継続）

島根県のアブラムシ相について基礎的な調査を行い、保全上の重要種の生息状況を検討する。

⑨突道湖における突発的な水草の分布拡大に関する原因の解明（継続）

宍道湖で突発的に発生する水草について、出現種、群集構造、バイオマス等の定量化を行い、その原因を検討する。

⑩隠岐島前の鳥類相調査（新規）

隠岐諸島における鳥類相把握のため、先ず島前を中心とした現地調査と情報収集を行う。

⑪島根県東部におけるゴギの生息状況調査（新規）

絶滅危惧種であるゴギの生息実態調査を島根県東部で行い、現状を把握して保全について検討を行う。

⑫島根県のカイガラムシ相調査（新規）

島根県内での生息情報が少ないカイガラムシについて調査を行い、希少種や外来種の生息状況を調べる。

◎種の保存と環境整備に関する連携事業

宍道湖・中海ならびに県内の水域に生息する野生生物に対して環境整備や調査研究事業を外部と共同で実施する。

## 5. 「普及啓発事業」

### (1) 基本的な考え方

- ・ 普及啓発事業は、子どもや地域の人々に自然の仕組みや大切さ、花や鳥や虫がどう暮らしとかわかっているのかを楽しみながら学ぶ基本的な事業ととらえ、重点事業に位置づける。
- ・ 地域の自然特性を活かしたテーマを中心に取り組み、ラムサール条約湿地である宍道湖・中海の自然や生物のテーマに重点を置く。
- ・ 宍道湖グリーンパーク（ビオトープ池）やふるさと尺の内公園など財団が整備してきた施設とその周辺環境の特色を生かしたテーマに重点を置く。
- ・ 実施する意図を的確に捉えつつ、参加する側がわかりやすく楽しめる内容にする。
- ・ 調査研究で得られた知見を取り入れるなど学術的な内容も盛り込んでいく。

### (2) 進め方

#### ①自然観察会などの開催

地域住民や小中学生を対象に、鳥類や昆虫類、魚類、植物などのほか子どもにも親しみやすい題材をとりあげ、自然保護意識啓発のための季節に合わせたプログラムを組んで開催する。

##### 宍道湖グリーンパーク

- ・ 定例観察会として年間12回を計画（毎月）。
- ・ 地元と協力関係にある田んぼにちなんだ活動や観察会を定例観察会や地元幼稚園との企画等と兼ねて実施。

##### ふるさと尺の内公園

- ・ 定例観察会として年間5回（4-8月）。

#### ②企画展の開催

##### 宍道湖グリーンパーク

- ・ 夏（7-8月）「動く植物たち（仮題）」。
- ・ 冬（12-1月）「知ってる？ 砂浜の鳥と虫（仮題）」。

### ③展示更新

- ・ グリーンパーク（観察舎）において、コーナー展示と称して、マガンやコハクチョウの渡来日予想にあわせて、あるいは世界湿地の日などをテーマにして、ある程度まとまった展示更新を行う。
- ・ グリーンパークの観察舎やゴビウス館内ガラスケースの展示について、季節やフィールドの変化にあわせた更新を適時行い、来園者の興味関心を引くように管理する。

### ④研修会・シンポジウムなど

- ・ 研究所において実道湖学習講座など地域の自然や生きものをテーマにした研修会、講演会などを開催する。

### ⑤パークボランティア制度

- ・ グリーンパークのボランティアの方々とのコミュニケーションを深め、観察会のプログラム材料や参加者に興味づけるノウハウなどの研修会を必要に応じて実施し、ボランティア活動をとおしてより充実感のある活動の場の提供を検討する。

### ⑥グリーンパーク利用促進のための企画

- ・ 来園者が野生生物や自然観察などにより興味関心を持つきっかけとなるようなリーフレットなどを作成し配布する。
- ・ 来園者向けの特別イベントとして年間5回を計画（ゴールデンウィーク、6月のグリーンパーク開園記念、9月の連休、11月のラムサール条約登録記念、2月の世界湿地の日）。
- ・ 利用促進が自然とふれあう機会を増やすことにつながるという趣旨から、年始にプレゼント企画を実施するなど、適時適度に計画する。

### ⑦公共サービス

普及教育ではないが、グリーン財団が社会的に認知されてきた証しとして、次のようなサービス業務がある。他業務との兼ね合いがあるが、いずれも業務に支障のない範囲で今後とも対応していきたい。

「公的機関からの審議会委員就任要請」

「公的団体からの講師派遣の要請」

「マスコミからの各種の問い合わせ、取材対応」。

## 6. 「情報収集発信事業」

### (1) 基本的な考え方

- ・ 研究所としてもっとも重要な「標本」「文献」「写真」「映像」「データ」などの「知的資産」を収集、整理し、適切に保管しながら、展示や情報提供などへの活用を図る。
- ・ 調査研究や普及啓発事業を展開する上で、各種情報の収集や整理、発信は欠かすことができないものであり、より一層これらの事業と結びつけていく。
- ・ 基本的な文献と標本を揃え、情報の集積とデータベース化を進める。

### (2) 進め方

#### ①標本の収集、整理、保存

- ・ 研究用の標本を収集、整理、保存する。
- ・ 普及教育活動に必要な標本をそろえる。

## ②文献の収集、整理、保管

- ・ 研究所に必要な文献資料を入手し、データベースに登録する。
- ・ 入手にあたっては、各地の研究機関、博物館、大学との雑誌交換（ニュースレターや研究報告書など）によって収集するほか、必要な文献は計画的に購入する。

## ③映像・写真の収集、整理、保管

- ・ 研究所に必要な映像・写真を収集し、保管する。

## ④鳥類等の観察情報のデータベース化

- ・ グリーンパークに寄せられる鳥類の観察情報やレッドデータブック掲載種など希少性の高い生物などの生息情報のデータベース化を図る。

## ⑤学会への加入、参加

- ・ 関連学会に加入し、学会や会誌をはじめ全国の研究者との交流等から専門性を高め、より充実した事業の展開に結びつける。

## ⑥研究報告書の発行

- ・ 研究成果の公表（情報発信）を目的にして、平成26年3月に第17号を予定する（B5版、300頁、1000部発行）。
- ・ 研究報告特別号を随時発刊する（第9～11号を想定）。
- ・ 全国の博物館、大学、研究所、学会、自然保護団体などの関連機関および鳥根県の行政機関、関連団体、公立高校、公立図書館などに寄贈する（雑誌交換）。

## ⑦ニュースレターの発行

- ・ 来園者や観察会参加者、財団の活動に関心を持つ方々に自然情報や財団の活動をわかりやすくつたえるとともに、記録として残すことができるニュースレター（年4回、4ページ程度）を発行する。
- ・ 全国の自然保護団体や博物館などとの交流や情報を交換するために雑誌交換にも供する。
- ・ グリーンパークのボランティア向けの連絡誌（年4回）を発行する。

## ⑧ホームページの運用

- ・ 部分的な更新によるフィールド情報やイベント情報などタイムリーな情報発信をより一層充実するとともに、財団の事業や施設あるいは自然や野生生物に対する興味を引き出せるように検討を重ねていく。

## ⑨収蔵資料の整理と活用

- ・ 文献や標本などを整理し、データベース化などの作業を進める。

## ⑩普及啓発資料などの発行

- ・ グリーンパークや尺の内公園においては、来園者が野生生物や自然観察などにより興味関心を持ち学習に役立つリーフレットなどを製作する。
- ・ ゴビウスと共同で企画展テーマの生物や県内の野生生物を紹介するカレンダーなどを発行する。

## ⑪尺の内公園開園20周年記念誌の作成

- ・ 尺の内公園が平成26年4月に開園20周年を迎えるため、これまでの生物調査や観察会などの活動の成果をまとめた資料集を発行する。

## 7. 「地方公共団体からの受託事業」

地方公共団体からの受託業務は、財団の基本理念に適合するもの、社会貢献度が高いと考えられるものについては、受託していくものとする。なお、平成 17 年度より指定管理者制度の対象となった宍道湖自然館ゴビウスの管理運營業務も同様に考え、さらに充実・発展するように取り組んでいく。

[参考] 平成 25 年度は平成 24 年度とほぼ同程度の受託事業が想定される。

### ①宍道湖自然館ゴビウスの管理運營業務

島根県水産課からの委託業務（指定管理者）。

### ②鳥類生息調査

島根県森林整備課からの委託調査。

### ③ラムサール関連事業

島根県環境政策課からラムサール条約湿地である宍道湖、中海の普及啓発等の委託業務。

### ④しまねレッドデータブック改訂に伴う作業

島根県自然環境課からの委託業務。

### ⑤出雲市自然環境調査研究

出雲市からの委託調査。

### ⑥斐伊川水系外水辺環境調査

国交省出雲河川事務所からの委託業務。



## 平成25年度 宍道湖グリーンパーク・ふるさと尺の内公園の定例観察会

### ◎宍道湖グリーンパーク 「定例自然観察会」

開催日	タイトル(仮)	案内内容	時間	定員
4/14(日)	春だよ！草花を観察してあそぼう	園内を散歩しながら、クイズを解いたり、草花あそびを楽しみましょう。みんなで春の発見しませんか？	10:00~12:00	20名
5/12(日)	水辺のバードウォッチング	初夏は多くの鳥たちにとって大切な子育ての季節。水辺にいる鳥の様子を、双眼鏡や望遠鏡を使って観察してみよう！	10:00~12:00	20名
6/16(日)	水辺の生きもの観察会	グリーンパークの周りにある水辺で生きものをつかまえ、じっくり観察してみよう！	10:00~12:00	20名
7/21(日)	トンボをみつけて観察しよう	大きなトンボ、スリムなトンボ、しぶい(!?)トンボ…。いろいろなトンボを探してみましょう。もしかしたらナゴヤサナエの羽化も観察できるかも！	10:00~12:00	20名
8/11(日)	水辺の植物標本づくり	水辺に出かけていろいろな植物を探し、標本づくりに挑戦しよう！夏休みの自由研究にオススメです。	10:00~12:00	20名
9/8(日)	ハチを観察してみよう	ハチはこわい生きもの？あぶない生きもの！？身近なハチがどんな生きものでどんな生活をしているのか観察してみましょう。	10:00~12:00	20名
10/6(日)	バッタをみつけて観察しよう	草や地面にうまくカモフラージュするバッタたちをよ〜く探してみよう。どんなバッタに出会えるでしょうか…。	13:30~15:30 (10月から午後)	20名
11/10(日)	葉っぱをじっくり観察しよう	草木にとって大切な役割をしている葉っぱ。一枚の葉っぱから自然の仕組みをたのしく探ってみませんか？	13:30~15:30	20名
12/15(日)	鳥たちが好きな食べ物なあに？ ～リースづくりもあるよ～	鳥たちはどんな食べものが好きなんですか？鳥たちが食べる木の実、草の実などを使っておしゃれなリース作りに挑戦！	13:30~15:30	20名
1/19(日)	「とりかるた」を作ろう	寒くても、室内でバードウォッチング！鳥のことが好きになる！鳥かるたを作って楽しみましょう。本物の野鳥に会いに出かけたくなるかも！	13:30~15:30	20名
2/2(日)	冬の生きものを探し	寒い冬、生きものたちはどこで、どんな風に過ごしているのでしょうか？ダンゴムシなどの足元の小さな生きものたちにも注目！	13:30~15:30	20名
3/9(日)	鳥を観察して「かざみどり」をつくらう	宍道湖を賑わしていた冬鳥たちの姿もまだまだ見られます。バードウォッチングと簡単な「かざみどり」づくりをたのしみましょう。	13:30~15:30	20名

### ◎ふるさと尺の内公園 「定例自然観察会」

開催日	タイトル(仮)	案内内容	時間	定員
4/21(日)	これからはじめる大人のバードウォッチング講座(春編)	新緑の美しい公園内では小鳥のさえずりが盛んです。さてどんな鳥のさえずりなのでしょう！はじめてみませんか？バードウォッチングを…。	7:00~10:00	20名
5/19(日)	これからはじめよう！親子でバードウォッチング(初心者向け)	初夏の公園にあらわれる鳥たちを観察して、家族の話題にしませんか？バードウォッチング初心者の親子向けです。	8:00~10:00	20名
6/8(日)	夜のホタルの観察会	尺の内公園ではゲンジボタルとヘイケボタルが幻想的な光で飛び交います。ホタルの話を聞きながら見てみませんか？	19:00~20:30	20名
7/28(日)	わくわく昆虫観察会	園内にはクスギの木がたくさん植えられています。樹液に集まる甲虫類やクロヒカゲチョウなどを間近で観察してみましょう！	10:00~12:00	20名
8/25(日)	わくわく昆虫観察会	夏休みもそろそろ終わりになります。バッタやセミ、カマキリたちも秋の気配を感じはじめます。採集をしてよく見てみましょう。	10:00~12:00	20名